

○『万年暦（まんにょんごよん）』

昔ながらの古式ゆかしい暦にはその日の吉凶、神事、祭事、四季折々の出来事、農作業の時期、月の満ち欠け、潮の満ち引き、人生の教訓、ことわざ等々、あらゆる事柄が記入されていました。

松ヶ崎では、知識が豊富で、何事につけ物知りで、沢山の知恵が頭の中に詰め込まれている人を言います。

○『ぜんといやんめしんやんめ』

銭取病は、死ぬ病。お金を稼ぐ事は死ぬ程つらく、苦しいものであることを言います。

○『満艦飯（まんかんめし）』

赤飯。軍艦がお祝いのしるしに、手旗信号の旗や国旗等をにぎにぎしく飾り立てる事を満艦飾（マンカンシク）と言ひ、晴れのお祝いの御膳に賑やかな満艦飯を盛り付けて、神様にお供えをしました。

新造船の進水式には、青い竹竿に、満艦飾に飾り立て、今でもお祝いをしています。

明治時代、横須賀の日本海軍軍楽隊に、垂水出身の瀬戸口藤吉という人がいて、世界の最たる行進曲「軍艦マーチ」を作曲しました。

○『ちんちんままに、ぶのすい』

白米の御飯にお魚の汁。昔、お米は貴重品で白米だけの御飯はめったに食べられません。普段はさつまいもを混ぜたり、押麦粟、稗等々を入れて炊いていました。

晴れの祝いの日は何一つ混ぜない白米だけの御飯（銀シャリ）が一番上等、最高の御馳走でした。

○『おかべ』

宮中言葉で豆腐の意味。

○『ずし』

おじやのこと。

○『うあせ、こあせ』

大汗、小汗。

○『さぐいちけがならん』

探し出すことができない。

○『ひえくいあがった』

凍えるような寒さのこと。

○『しょけ』

ザルのこと。

○『ぎったまい』

ゴムマリのこと。

○『たたっぱね』

工事などで板を叩いてから離すこと。

反対語『うったちけ』。

○『こだくる』

手のひらで大きなものを包丁を使って小さく砕くこと。



・参考、引用文献
『落日後の平家』永井彦熊著
『垂水史料集（八）』垂水市教育委員会
・監修
下世吉美、村山大海